

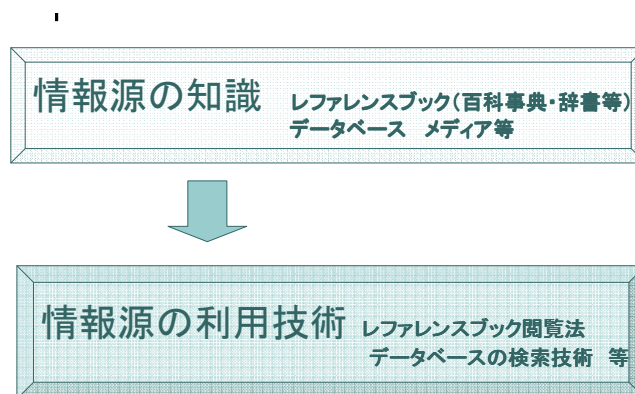
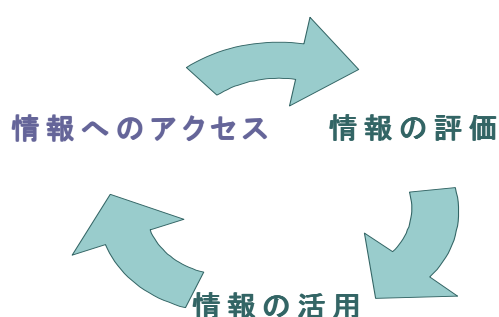
## 大学での学習と情報リテラシー

みなさんは数ある大学の中から本学を選び、本学の講義の中から自分に必要と思われる講義を選択し、履修登録をしました。数ある情報の中から何かを選択し、それを実行するということの連続は、今までの小学校から高等学校までの学校生活の中では、あまり経験しなかったことではないでしょうか？

情報化社会といわれる私たちの社会は、メディアやインターネットなどからもたらされる情報によって溢れています。専門教育を提供する大学での学習の中で、自らの課題を持ち、それを解決していくためには、”様々な種類の情報源の中から必要な情報にアクセスし、アクセスした情報を正しく評価し、活用する能力<sup>1</sup>”である「情報リテラシー」が必要とされます。この能力は大学での学習のみならず、情報化社会のなかで有用で正確な情報を入手するために、大変重要な能力となります。

### 情報リテラシー

### 情報へのアクセス



本学のライブラリーには、図書約8万冊・雑誌160種・電子資料850種を所蔵しております。この中で図書は、全体のおよそ2/5が日本語以外の言語で書かれた洋書で構成されています。また、日本語で書かれた和書も言語学分野の資料に重点を置かれて収集されています。これらの蔵書構成は、外国の言語・文化・文学等を専門とする本学の教育に沿ったものとなっており、本学ライブラリーの得意分野と言えるでしょう。

しかしながら、必要な資料が本学のライブラリーに所蔵しているとは限りません。卒業論文等の執筆には、自分の知りたい事柄に関して最新の研究ではどのような見解が示されているかを確認したり、他の学問分野の資料を用いて多角的に物事を考えたりする必要があります。

高等学校までの学校付属の図書室と異なり、本学ライブラリーは大学図書館として機能である、図書館ネットワークを持っています。県内の公共図書館や全国の大学図書館との相互協力により、本学に所蔵ない資料でも、その資料の情報を調べたり、取寄せたりすることができます。(送料有料)

ライブラリーの機能を最大限利用するには、どういったレファレンスブック(辞書・事典等の参考資料)やデータベースを用いればよいかという情報源の知識と、情報源の利用技術が必要になります。「情報リテラシー」を身につけて、全国の図書館を利用しましょう。

<sup>1</sup> 日本図書館学会『図書館情報学用語辞典』丸善 1997 p351